

平成29年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム〈概要〉

◆ 日 時 平成29年9月28日(木) 13:00-16:30

◆ 場 所 iichiko音の泉ホール(iichiko総合文化センター内)

内 容

➤ 開会行事

主催者あいさつ

大分県教育委員会 工藤 利明 教育長

➤ 行政説明

文部科学省初等中等教育局 木村 直人 参事官



なぜ学校と地域との「連携・協働」が必要なのか

地域連携＝「貸し借り」になっている

【地域の方】
今度、地域の清掃活動があるので学校からも手伝いに来てほしい。

【学校】
この前、花壇の整備を手伝ってもらったから、行かないと悪いな・・・

未来に向けて、
アクションを起こそう！



「貸し借り」にしないために
地域と学校がお互いに「当事者」となり、
共通の目標に向かっていく

共通の目標

学校運営協議会と学校評議員などの違い

学校運営の当事者＝責任あり

↓

平時ではなく**有事**の際にも
最大の力を発揮

【学校評議員】
→ 校長の**求めに応じて**意見を述べるができる

教育の質の向上と業務改善の二兎を追う

| | | | |
|------|------------|-----------------------|------------|
| 業務の量 | 教育活動 | 地域や保護者の支援が得られる | 質が向上 |
| | 生徒指導(苦情対応) | 苦情が減る 生徒指導の協力が得られる | 教育活動 |
| | 事務的業務 | 協議会運営の事務が増える | 生徒指導(苦情対応) |

学校運営協議会なし → 学校運営協議会有り

学校運営協議会に関する事務量は増える。しかし、それを補って余りある業務改善が回られ、更に教育の質が向上。

子供たちが未来を生き抜く力を身に付けるために

人は人を浴びて人になる

「社会に開かれた教育課程」
は、学校だけで考えていくものか？

➡ 各学校が組み立て、**家庭・地域と連携・協働**ながら実施し、目の前の子供たちの姿を踏まえながら不断の見直しを図る。

これからの教育課程の理念

教育課程そのものを社会に開いていくこと

<社会に開かれた教育課程>

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ**、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという目標を持ち、**教育課程を介してその理念を社会と共有**していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、**社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化**し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、**学校教育を学校内に限らずに、その目指すところを社会と共有・連携し**ながら実施させること。

「地方行法」の改正と今後の持続可能な取組に向けて

今までの学校運営協議会制度
学校運営の在り方の**選択肢を拡大**。



各教育委員会では
「やるかやらないか」を判断すれば足りる
※やらなくても何ら問題なし
説明責任も生じない

熊本地震で発揮された
コミュニティ・スクールの力
益城町

- ・昔ながら、学校と共に「**意志決定**」をする関係ができていたこと
- ・目標を共有しているため、適切な「**役割分担**」ができていたこと
- ・協議により決定したことを「**協働**」に結びつけていること
- ・子供たちの教育の「**当事者**」として、自分たちには何ができるのかを探し続ける人々の姿

思いをもってやっつけていこう！
それを周りに伝えていこう！
喜びを、楽しさを、
わかちあおう！

平成29年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム(大分会場)

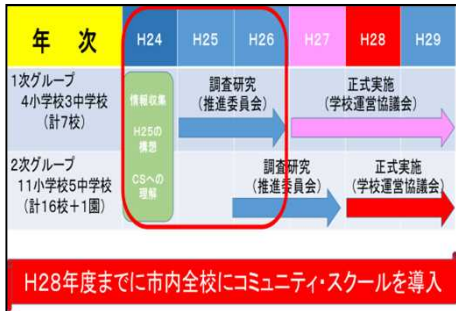
実践発表

コーディネーター 大分大学COC+推進機構
岡野 涼子氏

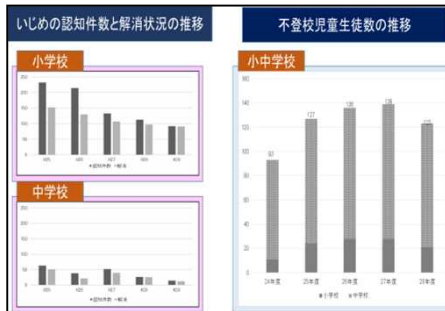


実践発表 I 別府市教育委員会

導入の流れ



導入の効果



< 課題 >

- ① 学校間における取組 (意識) の差
- ② 中学校区共通の重点的取組の差
- ③ 人材の確保 (実働部隊)

(1) 学校間における取組(意識)の差



実践発表 II 山口県萩市立萩東中学校

学校を開く

授業を開く



組織を開く

| 人材育成ユニット | | | | | | | | | |
|--|--------|----------------------|----------------------|------------|--------------------|-----------------------|--------------------------|--|--|
| 管理職 | グループ | アドバイザー | メンター | サポーター | 1~3年目 | 異課・異校・異市 | 学校運営協議会 | 【この島】 | |
| 宇野校長 村岡教頭 着巻教頭 安部教頭 【学力向上推進リーダー】 西中 | ① (7名) | *私田 (通称) *小野 (通称) | 中島 (探検) 形山 (特別支援) | 金谷 (通称) | 川本 (探検) | *吉野 (通称) | 藤橋 かなり 西中 志 | 小松 順子 田中 弘典 林 幸代 上田 優子 尾田あおい 村松 幸治 山田 智美 中嶋 洋子 井野 恵子 | 萩 達也 伊藤 茂 栗田 定章 吉野 あやこ 栗田 広雄 |
| | ② (8名) | *田村 (英語) | 武田 (英語) | 木村 (英語) | 樋口 (英語) 森永 (英語) | *新江田 (探検) *橋本 (探検) | 藤達也 伊藤 茂 | | |
| | ③ (6名) | 藤井 (社会) | 西山 (国語) | 岩田 (社会) | 木長 (社会) | *栗田 定章 (探検) | 栗田 定章 吉野 あやこ 栗田 広雄 | | |
| | ④ (7名) | 成松 (理科) 山本 (数学) | 浅賀 (数学) | 秋山 (理科) | 小林 (理科) 渡邊 (数学) | *島田 (探検) | 島田 順子 山崎 豪久 三浦 彰子 | | |
| | ⑤ (7名) | 中田 (美術) *水原 (音楽) | 藤林 (家庭) | 池田 (特文、国語) | 徳光 (技術) 藤田 (音楽) | *橋山 (音楽) | 小嶋 由紀 藤原 真紀 渡辺 光浩 | | |

| 部会名 | 目的 | 委員内容 |
|----------------|------------|---|
| 心と体プロジェクト部会 | 児童の心身の発達 | 午休指導・教室掃除 (交通安全) 特別支援教育 (遠来学習・通学指導・文芸学校) |
| 学びプロジェクト部会 | 児童の学習意欲の向上 | 研修指導・学習指導 学校安全・生徒委員会 教務部 教育課程全般・学級・教科書・習字 |
| 学校文化向上プロジェクト部会 | 児童の文化意識の向上 | 研修部 学力向上・図書館 教科書 少年読書運動 特別活動 社会活動・ボランティア運動 体験活動 職業講話・職場体験 運動部 芸術部 環境整備部 給食・清掃・掲示 学校文化祭 |
| 臨時プロジェクト | その他 | その他 中・高から依頼されたプロジェクト 主務指導・教育相談・特別支援・各学年主任 みずみずしい学校創生プロジェクト 主務担当・環境整備・音楽科・美術科・図画科・図書科 小中連携教育推進協議会 |



平成29年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム(大分会場)

➤ パネルディスカッション「行列のできるCSマイスター相談会」



コーディネーター



相談役:行政担当

豊橋市教育委員会教育政策課 事務指導主事 風岡 治氏
兵庫教育大学教職大学院 教授 小西 哲也氏



相談役:地域担当

大阪府美加の台中学校区ゆめ☆ま
なびネット学校支援コーディネーター
大谷 裕美子氏



相談役:学校担当

宇和島市立吉田中学校
校長 西村 久仁夫氏

CSマイスター相談会① 国東市立安岐小学校

【相談①】保護者・地域の方々に当事者意識を持ってもらうには？



認知度を高めていくためには、ケーブルテレビ、自治会の回覧版、新聞報道、啓発リーフレット、学校HP、SNSが効果的。当事者意識については、「熟議」が一番効果的である。

学校に来ているボランティアの方など、学校に気持ちが向いている方々に話を行いベクトルの方向を揃えることが大事である。地域や保護者に、学校の思いや情報(行動)を共有できる場面を設定する必要がある。1度ではなく、2度、3度行っていけば来てくれる。



山口県のある中学校では、数学科と社会科の教員が地域の大人向けに授業を行ったところ、大盛況であった。そこから、地域は学校に対して興味が沸いた。地域の人に学校がやっていることを開いていくことが大事である。



▶ パネルディスカッション「行列のできるCSマイスター相談会」 CSマイスター相談会① 国東市立安岐小学校

【相談②】 学校(教員)の負担増にならない取組にするには？



既存の会議を統合発展させ、会議の回数を減らすことで負担減になっていく。また、学校運営協議会が考えていくテーマを工夫することも大事。大きなテーマを設定し、年間を通してやっていくことよりも、個別のテーマに焦点を絞る方が、当事者意識も高まり効果的である。

コーディネーターの存在が大事。コーディネーターがいなくても、地域に学校に対する思いをもった人、既にコーディネーター的役割をしている人がいると思う。その方をもっと活動に参加していただくとよい。

また、地域の人へのハードルの低い活動を設定することも大事である。地域の人々がハードルが低いことで、学校に入りやすく、理解を深めていくことにつながる。



CSを新しい仕事として普段のルーティンに上乗せしても上手くいかない。学校運営協議会でコーディネートする力を備えていくことが大事である。「コーディネーターがいらないからCSをやらない」ではなく、複数の人が集まり、知恵を絞ってコーディネートしていく機能がCSの醍醐味である。コーディネート力を身に付けた学校運営協議会になってほしい。



CSマイスター相談会② 大分市竹中中学校

【相談①】学校運営協議会の思いを、地域に広め共有していくためには？



ケーブルテレビ等での町内全戸への周知が効果的。また、「地域とともにある学校づくりに取り組んでいる●●中学校では…」といったアナウンスも効果的であった。

学校・家庭・地域とあるが、「みんなで育てている」となるのがよい。そのためには、口コミが一番効果的である。「学校に行ったらおもしろい」を口コミで伝えていく。また、学校運営協議会の委員に、学校に思いをもってやってくれる人に入ってもらう仕組みをつくとよい。



地域を巻き込むために、CSは学校支援だけを求めるといつかマンネリ化し衰退する。そうならないためにも、「大人が学ぶ(大人の学び)」を視点に取り入れたCSを考えるべきではないか。これは、地域貢献にもつながっていく。



▶ パネルディスカッション「行列のできるCSマイスター相談会」 CSマイスター相談会② 大分市竹中中学校

【相談②】学校運営協議会による学校運営への参画を、 更に進め充実していくためには？



学校運営協議会の会期をはっきりさせることが大事である。提案、協議、議決が1回の協議会で行われ、その議決に基づいて学校が実践し、結果を報告する。「今回はこれをしましょう」というものを実践・報告すれば、各委員は提案(発言)したことがいかされていると感じ、当事者意識が飛躍的に高まる。

学校運営協議会は、学校の進むべき方向(意思)を決定していくもの。その学校運営協議会では、「3つのかけ算」である「仕掛け・きっかけ・声かけ」が地域の方から出てくる。これを地域へと広げていくと、また次のステップに上がっていくのではないか。



CSは「子供や大人のありたい姿」を地域と共有することが大事である。また、目的や目標を共有する際、専門用語をそのまま放置せず、地域や子供が理解していくための努力が学校運営協議会に求められる。校長が変わっても学校運営協議会は続いていく。地域に根付いたカリキュラムをどのように開発し、運営し続けていくかを考えていくことが大事である。



「地域とともにある学校」をうまく機能させるためには、「学校と地域の信頼関係の構築」が必要である。学校からの情報提供の方法、理解してもらうための仕組み、機会の提供を通して、地域と学校の信頼関係をつくっていくことが、CSを充実させるために必要ではないか。

「信頼関係の構築」のためには、「チーム学校」が必要である。「家庭や地域と一緒にになったチーム学校」の姿が、これからのCSではないか。



学校がチームとして機能するためには、学校・地域が目的や目標を共有して、お互いが一つの学校運営協議会の中で、判断基準をもってまわしていく。その中で必要なのが、円滑なコミュニケーションである。

効果的なチームにするには、「当事者意識」が必要である。委員一人ひとりが、チーム学校のメンバーとして受け入れられているか、認められているかをCSを通して実現させることが大事である。これからは、委員一人ひとりの能力とやる気を引き出せるCSが必要になってくる。

